

## 旧滝野川第六小学校に係る利活用計画（案）

コンセプト

「安全で災害に強く多文化の交流から未来へつながるまち」

基本的考え方

○当地域を含む滝野川西地区は、今後の人口推計において、就学前人口が増加傾向にあるとともに、現在保育所の待機児童が発生している地区である。さらに、当跡地は JR 板橋駅や都営三田線新板橋駅などへのアクセスも良いことから、さらなる保育需要の向上が見込まれ、就学前教育・保育施設の整備が求められている。

○当跡地を含む滝野川西地区の年少人口の比率は北区平均とほぼ同等であるが、生産年齢人口比率は北区平均を上回っている一方で、高齢化率は北区平均を下回っており、その傾向は今後も続くと考えられる。

○東京国際フランス学園については、平成 24 年に当跡地の近接地に移転し、多文化理解や多文化共生の観点から、地元自治会や近隣小中学校との連携・協力をさらに密に行っていく必要がある。

○当跡地を含む滝野川5丁目地域は、木造住宅の密集地域であることから、地震に関する総合危険度が相対的に高く、当跡地についてもこれまで避難所に指定されており、引き続きオープンスペースの確保への配慮が求められる。

◎そこで、本跡地については、待機児童対策や東京国際フランス学園を中心に、文化の交流を通じた多世代がくらしやすい安全な地域づくりを基本的考え方とする。

## 基本的方向

### ① 保育所待機児童の解消

保育所の待機児童が発生している状況であり、「子育てするなら北区が一番」をより確実なものとし、待機児童の解消に資するため、保育園及び認定こども園など就学前教育・保育施設の設置を検討する。

### ② 東京国際フランス学園との連携の更なる強化

区の貴重な資源である東京国際フランス学園と更なる連携と交流を図るため、地域への教育環境提供などの貢献に留意し、保育所待機児童の解消に差支えない範囲で、東京国際フランス学園への利活用の推進を検討する。

### ③ 防災機能の確保

これまで跡地が担ってきた防災機能を引き続き確保するため、地震や水害への対応など安全に暮らせるまちづくりのために有効活用する。

## 事業手法

○待機児童解消にあたっては、当地区の待機児童数の推移等を考慮しながら、施設の誘致等を検討する。

○東京国際フランス学園への利活用を推進する際には、区民への開放、オープンスペースの確保等防災への協力、地域や近隣小中学校等との連携・交流など一定の条件を付したうえで、売却または貸付を検討する。

○売却または貸付の決定にあたっては、北区学校施設跡地利活用指針に基づき、将来的な土地利用のあり方を踏まえ十分に検討する。